

三重県東員町から送る、みんなをハッピーにする新聞

TOIN GOOD NEWS PRESS

2022 08

とういんグッドニュース新聞 04



ぐっとくる

夏空の下に青々と広がる稲穂の海（東員町北大社）

がんばり全国へ

ぼくは、神田ブルーレイズで野球をしています。5月に行われたマクドナルド・トーナメントの三重県大会で、優勝することができました。

県大会は、負けそうになったり、ピッチの時間があっただけ、みんなで声を出して、「勝つんだ!!」という気持ちでがんばりました。

決勝戦では、ツーベースヒットが打ってランナーを帰して、2点得点できました。ぼくは、4回の裏から、ピッチャーをやらせてもらいました。打たれても、みんなが守ってくれたので、うれしかったです。最終回も、みんなで守って、優勝が決まった時、ヨッシャーとみんなで大よろこびしました。おうえんしてくれた人たちも、すごく

もり上がって、よろこんでくれていて「やったぞ。」と思いました。いつも、自主練をつきあってくれているパパの顔が見えた時、うれしそうな顔をしていたので、本当によかったと思いました。

8月に、小学生の甲子園といわれる、マクドナルド・トーナメントの全国大会に出場します。これからも、全力で練習をやって、『負けたくない』という気持ちを忘れずに、三重県代表として、じんぐう球場に行ってきます。優勝目指してがんばりますので、おうえんよろしくお願いします。

（笹尾西小学校・6年生）
▶三重をせいはして、次の目標は日本一だね！ 精いっぱい、がんばって！



しゃくやくの笑顔

先日、小学1年生の娘が、上木食堂の方に、しゃくやくの花を一輪もらいました。

その次の日の朝です。なかなか起きてこないで起こしに行くと、突っ伏して泣いています。

「にっちょくのスピーチ、はずかしい〜」

家族みんなで、あーだこーだと、慰めたり、励ましたりしましたが、泣き止みません。

「無理せず、1回とばしてもらって、次のときがんばれば？」

と、試しに言ってみると、「言いたい〜」と言いながら泣きます。やりたない気持ちとはずかしい気持ちとの葛藤

です。葛藤を乗り越えてこそその成長と分かっているけど、こちらはついあたふたしたり、大人の論理で物事を進めようとしてしまいます。

しかし、その日は、小3になる上の娘が、

「あの花（しゃくやく）のことでスピーチしたら」

と、アドバイスをくれました。花をもらったときの喜びが蘇り、一気に事態が好転。娘は、

「あげきしくどうのひとにしゃくやくのはなをもらいました。しろいおおきなはなです。もらってうれしかったです。」

と紙に書き、練習もして、無事、学



校へ行くことができました。あらためて、子どもの気持ちは、子どもがよくわかっているものだと思います。スピーチはうまくいったようで、しゃくやく同様、娘の笑顔が咲きました。

（いなべ市・ひょうきんどんぶり・39歳）

武器を楽器に変えよう！

World Peaceプロジェクト

梅村冠花さん

東員町を拠点に活動する「ガールスカウト三重県第12団」が取り組む『武器を楽器に変えよう！ World Peaceプロジェクト』。

ほかのガールスカウトとも連携をとりながら少しずつ広がりを見せているこのプロジェクトは、ひとりの児童の平和を願う想いをきっかけに動きだしました。

ひとりの少女の想い

菰野町に住む小学1年生の梅村冠花さんは、ある日、ウクライナで起きている出来事をニュースで知りました。たくさん武器や悲しむ人たちの姿を見ているうちに、「なにかわたしにできることはないかな」と、冠花さんは考えはじめます。

幼い冠花さんに芽生えた小さな想いに、両親も真剣に向き合い、みんなで話し合いました。

「もし、自分のまわりでも同じことが起こったら？」

「どうしたら、こんな悲しいことがなくなるかな？」

「平和って、なんだろう？」

「どんな世界になってほしい？」

いろいろと話し合うなかで、冠花さんは思いました。

「武器がなくなると、みんな笑顔で楽しく歌える世界がいいな！」

じゃあ、そのために自分ができることって、なんだろう。

冠花さんは、歌ったり、ピアノを弾いたりすることが、大好きでした。

そこで、一曲だけ弾くことのできる

「きらきら星」に、平和を願うオリジナルの歌詞をつけて、演奏しながら歌うことにしたのです。替え歌づくりは、お父さんとお母さんにも手伝ってもらいました。



気球にのせてもらうメッセージをみんなで書きました！

みんなにも聞いてもらいたい！

替え歌を世界中の人に聞いてもらいたい、と考えた冠花さんは、ピアノを弾きながら歌うようすを撮影してもらいました。初めての動画編集に苦労しながら、お母さんがそれにYouTubeにアップしてくれました。

冠花さんの活動は、所属する「ガールスカウト三重県第12団」にも、すぐに広がりました。

その発想に驚き、まっすぐな行動力に心を動かされた指導員のみなさんは、冠花さんの想いをより多くの人に届けていくために、団の活動として『武器を楽器に変えよう！ World Peaceプロジェクト』を立ち上げました。

そして、団に所属する仲間たちといっしょに、手作りのものもふくめたさまざまな楽器を手に、みんなで元気に替え歌を歌う動画を撮影して、団のYouTubeチャンネルにアップすることが決まったのです。

つながる活動の輪

動画をアップしたあと、神奈川県



替え歌を演奏したり歌ったりする動画が届き、少しずつではありますが、着実に活動の輪が広がってきています。

ほかのガールスカウトによるプロジェクトとの相互連携も生まれました。「ガールスカウト栃木県第22団」では、ウクライナカラーの気球に平和を願うメッセージを寄せ書きする『Peace Balloonプロジェクト』に取り組んでいました。

それぞれのプロジェクトに共感しあい、おたがいに協力していくことを約束すると、さっそく三重県第12団のみなで書いたメッセージを、栃木県第22団へと届けました。このメッセージは10月に栃木で行われるイベントで、参加者の方たちによって気球に代筆される予定です。

ひとりの児童が平和を願って起こした行動が、家族や団の仲間の力を借りて徐々に輪を広げ、あちこちにいる同じ想いをもつ多くの人たちの心も動かして、さらに大きくなっていく。

たくさんさんの想いが寄り集まって大きく育ちつつあるこのプロジェクトが、小学校に上がったばかりのひとりの児童から始まったというのは驚きですが、たいへん心強いことでもあります。

これからの時代を担っていく子どもたちによる、平和な未来を願う活動を、自主性は最大限に尊重しながら、ぜひ世代を超えて応援していきたいでしょう！

ガールスカウト三重県第12団
YouTubeチャンネル

「#武器を楽器に変えよう」
をつけて、みんなも動画を
投稿しよう！

ガールスカウト栃木県第22団
Facebookページ



各プロジェクトの今後の動きについては、引き続き本紙とホームページでお知らせしていきますので、お楽しみに！



YouTube にアップする動画用に演奏中！



児童たちの
視点に
感嘆！



五年生の国語の授業で、説明文の書き方を学習した際、「ランドセル」をテーマに作文を書いてもらいました。「インターネットで調べたい」という声があったので、許可したところ、児童たちが提出してくれた作文の内容を見て、正直、びっくりしました。

「大正天皇の学習院ご入学祝に伊藤博文が箱型の通学カバンを献上したことがランドセルの始まりだとされています」

「約二百五十種類ものランドセルの中から選ぶのはとても大変でしょう。ですが、一つ一つのいいところを探して、自分にぴったりのものを見つけないでしよう」

といった、ランドセルの始まりや種類の豊富さに着目した内容から、

「ぼくはこのままランドセルが使われ続けるとは限らないと思う。理由はもっと楽に運べるかばんが出来ると思うからだ」

「教材の多さをどうするか、そこを国が考え、子どもの体への負担を少しでもへらせるようになってもらいたいのです」

と、将来を予想するもの、問題を提起するもので、そのテーマの幅広さや着眼点の鋭さに、すっかり感心してしまいました。また、広大なインターネットの世界からの確に情報を探してくる力にも、うならされます。

大人顔負けの視点と高いインターネットリテラシーを感じさせてくれる、大変頼もしい成果となりました。

（笹尾東小学校・M先生）

やさしさにふれた しゅんかん

わたしの学校は、やさしい人がいっぱいいると思います。

わたしは去年、年上の子にいやなことをされて何も言えずにその場で泣いてしまいました。しばらくだまって泣いていると、6年生のお姉さんが、「どうしたの。」

と声をかけてくれました。その場で話を聞いてもらい、お姉さんはその子に本当にそんなことをしたのか、聞いてくれました。お姉さんはその子に、「あやまって。」

と言ってくれました。その子は、あやまってくれました。
「もういやなことはしない？」
と、最後まで、わたしのことを、気にしてくれました。

わたしもお姉さんのように、だれに

でもやさしくしてあげたいです。

（稲部小学校・4年生）

▶たよれるお姉さん、あこがれちゃっ
ね！ 絵からも気持ちがあふれてる！



学校への恩返し

私の学校では、五月に「応援隊」が発足しました。環境整備（草取り等）、地域でのあいさつや見守り、教育活動（調理・裁縫等）の補助をお願いする、地域の方によるボランティアです。

応援隊に参加された方に理由をお聞きすると、

「孫がこの学校にいるわけではないが、自分の子どもが昔お世話になったので、恩返しがしたいと思ったから」というお答えでした。私は、お孫

さんが学校に通っているからだろうと

思っていたので、その答えに驚きました。お子さんやお孫さんが卒業しても、学校のために何かできることを、と思ってくださいることが本当にありがた

いと思いました。と同時に、私たちが今、学校に来ている子どもたちに愛情をもつてあたるのが、未来の応援隊につながるのだと改めて気づか

（笹尾東小学校・K・I）

ふしぎな わっか

私は子どもの小学校で、読み聞かせの活動をしています。学期ごとに1度の授業の始まる前の15分間だけですが、子どもたちに本を読むことで、色々なことを感じてほしい、リラックスして授業を受けてほしい、そんな想いからボランティアのママさんたちで活動しています。

先日は、特別学級の担当になりました。気持ちのコントロールが苦手な子や、支援が必要な子が、色々な学年から集まるクラスです。私はそのクラスの子どもたちとふれあったことが一度もなかったのですが、どんな本を選んだら良いか、どんなふうに言葉をかければ良いか、少し悩みましたが、（どんな本でも正解はない！ とにかく選んだ本を楽しんでもらおう）と、当日を迎えました。

「おはようございます！」と教室に入ると、先生が簡単に紹介してくれました。ですが子どもたちはうつむき加減で、誰も言葉を発しません。

「緊張してる？ こんな本持ってきたよ」
2冊用意していた本を見せながら、「どっちから読む？」と聞いてみると、少しずつ「こっちがいい」などと声を出してくれるようになりました。

最初に読み聞かせたのは、『ふしぎ

なわっか」という本でした。人さし指と親指でわっかを作り、そこからのぞいて、離れたところにあるものや人を捕まえるという内容です。2冊目は『やさいのおしゃべり』。こちらは、野菜たちが冷蔵庫の中でおしゃべりしているという内容の本でした。

無事に本を読み終え、簡単な挨拶をして教室を出ました。少し話が長かったかな、ちゃんと聞こえたかな、と反省しながらその日を終えました。それから数日後、近所を家族で散歩していると、大通りの反対側に、特別学級の1人の子が、私たちと同じように家族で散歩していました。よく見ると、その子は手でわっかを作って、私のほうを見ていたのです！

「わー！ やつてくれたる！」
私は嬉しくて小躍りしました。しかも私を捕まえてくれたなんて！ どんな言葉よりも嬉しい反応でした。親子ほど年の離れた私たちですが、なんだか友達になったような！

初めて会った人と人をこんなふうに繋いでくれるなんて、本というものは本当に面白いなど実感した出来事でした。また、たくさんの子どもたちに本を読みたいと思いました。

（広島県・ちっぴーさん・40歳）

ロシヤ オオタキ の話



北勢線の北大社駅から電車に乗って高校へ通った。電車の乗降口の扉は手動式だった。先頭の乗客が自分で扉の留め金をくると回し、ロックをはずす。重いハンドルを引き、扉を開けて降りた。50年以上前に北勢線を利用した人なら、自分で扉を開け閉めした覚えがあるだろう。手動式の扉はいつしか自動扉に変わり、いくつかの駅が統廃合された。北大社駅と六把野駅の間に東員駅が新設され、ふたつの駅は姿を消した。

高校3年生の夏は、休み中も受験のための補習があつて登校した。いつもよりは遅い時刻に電車を待っていると、親子づれがホームに上がって来た。ひ

らがなを習ったばかりらしい男の子が、駅名標（ホームの駅名を書いた看板）を声にだして読みはじめた。
「ろ・し・や・お・お・た・き」
「ねえ、おかあさん、ここに滝があるんだね」
「だって、ロシヤオオタキって書いてあるよ」

その子は、大きく書かれているひらがなの駅名をうしろから読んだのだ。ロシヤオオタキとかわいい声でいわれてみると、滝の音がどこからともなく響いてきた。暑くなり始めている夏の朝の空気が、すこしひんやりとした。なくなった駅の駅名標が、いま、北大社の集落センターに立てられている。どなたでも、ひらがなで書かれた古い駅名を右からゆっくり声に出してお読みになつてはどうでしょう。近くに瀑布（ばくふ）が流れおちているような気がして、ちよつと涼しく感じられるかもしれません。

（東員町・MARIO-BIKE・70歳）



初めての 大須に立つ

梅雨も明けた頃、感染症が一旦の収束をみせた合間に、久しぶりに名古屋にある大須商店街を散策しに家族で出かけました。

孫たちにとっては初めて訪れる場所であり、人混みを歩く経験の少なさもあって、最初は恐々といったようすを手を引かれるままでしたが、そのうちに目新しい光景への好奇心が勝ったように、徐々に先頭に立って歩くように。わらびもちや冷やし芋に舌鼓を打ち、トルコアイスに翻弄（ほんろう）されながら食べ歩きを楽しみ、普段行き慣れたお店とは違う雰囲気を感じた子どもたちも満喫できたようでした。

感染症蔓延（まんえん）後、レジャーというところでも人混みを避ける傾向にありました。そのため、人の多い場所に慣れず、他人との接触や人混みを極端に怖がるお子さんも少なくない耳にします。

人混みでの感染などには気をつけなければいけないのは当然ですが、今回、子どもたちの笑顔を見て、感染を恐れるあまり、さまざまな経験の機会を逃していたような気にもさせられました。

もちろん、一刻も早く感染症の流行が収束することが一番です。ですが、

何に注意を払うべきかを一人一人がきちんと考えて行動することも必要なのかもしれないと考えさせられた次第です。

ちなみに、つい先日棋士の藤井聡太さんが棋聖戦対局で食べて話題になった「ケロトツツオ」。

すっかりお土産としてゲットしていただいた孫は、そのニュースを見て「おれのほうが先に食べたもんね」と、なぜか勝ち誇っていたのでした。

（津島市・とくちゃん・73歳）



おいしい驚き！

仕事が遅くなり帰宅すると、食卓に夕飯ができていました。まさか、と思って子どもに聞くと、「鶏むね肉のてりマヨ。YouTubeを何度も見て、止めてをくり返して作った」と言います。初めて作ったとは思えないほどの出来で、色どりの野菜も添えてあり、家族みんなが驚くほどのハイクオリティー。すごくおいしかった！

「普段、母親がごはんを作ってくれることを当たり前だと思って食べていたけど、ふと、ありがたいことだと思えて、作ってみた」ということでした。とても感動しました。

（東員町・みんな・47歳）

母の奮闘



私の母は働き者でした。フルタイムで働きながら、家族のために奮闘する姿をずっと見てきました。

そんな母も今は後期高齢者となり、老いや病と向き合う年齢となりました。度重なる病気と手術を経て、衰えてしまった体力を取り戻すべく、現在は日々リハビリに励んでいます。周りの健康な人と比べては落ち込み、ネガティブになった時期もありました。しかし、もともと働き者の母でしたので、病院でのリハビリや地域の保健センターでのリハビリ、そして家でも自主トレならぬ自主リハビリ、「これが今の私の仕事だ」と、体づくりに励んできました。

その甲斐（かい）あって、以前は歩くこともままならなかった母でしたが、見違えるほど明るく元気になりました。それは母の努力もあったと思います。が、母を支えてくださった地域の保健師さんやリハビリの先生、いつも気にかけてくださった近所さんや友達のおかげがあったからこそです。

これからも皆さんのお力を借りながら、元気に明るく自分自身のための人生を謳歌（おうか）してほしい。娘としてはそう願っています。

（東員町・チロルママ・40代）

やはり世界の 石垣定哉!!

わずかな時間、滞在しただけで、この人の凄さは伝わってきた。初日の午前中に私が訪ねた時には数十万円もする絵の1枚は既に売却済みで、静かなスペースには途絶えることなく人が訪れていた。

私は飾られていた約30枚の絵を順番に観ながら、代わる代わるスタッフに話しかける来場者の声に聴き耳を立てた。「どうなの、先生の様子は、良くなったの?」「私は三重のアトリエまでお邪魔したことがあるんですよ」「これね、定哉さんに渡してほしいんです」「先生は元気? 新作は描けたの?」等々、後を絶たない。

ここは東員町ではなく、東京日本橋、高島屋本館の美術画廊である。熱心に絵を観る方々から漏れ聞こえる言葉尻や表情からも、石垣定哉さんがどれほど愛され、偉大な画家であるかが伝わってきた。

東員町出身の画家・石垣定哉さんは、かつてアメリカ、西欧諸国、アフリカ、アジアと世界を旅して描き続け、大きな称賛を浴びてきた。繊細で深みのある青は「イシガキブルー」と呼ばれ、国内外で高い評価を得た。2008年3月、60歳で脑梗塞に倒れたのは痛恨の極みであるが、左半身が不自由となつた今も描き続けている。

7月13日から18日にかけて



高島屋美術部課長 平岡にしきさん

投稿募集

【投稿先】

（お便り）

〒511-0255

三重県員弁郡東員町大字長深 3393

グッドニュース新聞社 記事投稿係

（メール）

info@goodnewspress.co.jp

とういんグッドニュース新聞は、全国から届けられた身近なグッドニュースでつくられる新聞です。健康と活躍のまち東員町から、毎月ポジティブな話題を発信しています。ぜひ、あなたのまわりのグッドニュースをお寄せください！

〈ホームページ〉



〈Facebook〉



〈Twitter〉



投稿の際はタイトル、お名前（ペンネーム）、ご住所、年齢、ご職業をお書き添えください。掲載にあたっては事前にご連絡を差し上げます。

編集室より

前号に続いて、児童のみなさんや先生方から、たくさんの投稿が届いています。すべてご紹介できず残念ですが、掲載しなかった記事や絵はホームページに順次アップしていきますので、ぜひチェックしてみてください！

痛ましいニュースを見ていると、それだけでつらい気持ちになってしまうものです。そういうときこそ、身のまわりに小さなよろこびを見つけたり、なにげないやさしさに目を向けたりして、自分の心をいやしてあげてくださいね。